

くらし

自然との
共生



森と海の 繋がりを伝える

NPO法人森は海の恋人副理事長
島山 信さん
【宮城県】



島山 信さん

島山さんは、海と森の繋がりにいち早く着目し植林活動などの環境保全活動や、環境教育を実践しているNPO法人森は海の恋人副理事長。被災者と支援者のマッチングから海の調査活動、防潮堤問題への取り組み等、精力的に活動している。2014年4月には舞根森里海研究所を設立。ご自身も牡蠣・ホタテ生産者である島山さんに自然との共生や繋がりについて語っていただく。

中高生へのメッセージ

まずは、色々な問題が世の中にあると知ること。世の中には色々なデータが存在していますが、それらが真実かどうかを見極めないといけない。そのためには自分で調べることが最も重要になります。

震災以前のこと

カキ、ホタテの養殖をしながら、森と海との繋がりを伝えるための環境教育プログラムを組んで、子どもたちとキャンプをしたり、学校の野外活動のお手伝いをしたりという活動をしていました。

震災から現在

震災が起きた日は海辺で養殖の仕事をしていました。とても大きく揺れて、海を見たら水が既に動き出しているのが分ったんです。船を守ろうと沖に向かいましたが、第一波に巻き込まれて舵が壊れ、漂うだけになってしまったので、海に飛び込んで何とか陸地に泳ぎ着きました。

そこは気仙沼の大島だったんですが、四日間ほどは火災をくい止めるために山肌を削ったり、貯水タンクの水を山まで運んだり、島の人と一緒に活動しました。自衛隊のヘリで内地まで運んでいただいて家に向かいましたが、津波に流されてすべてなくなってしまいました。幸い実家が流されずに済んだので、冷凍庫にあるものを少しずつ食べていました。

何日かして、NGOやNPO、民間の支援団体の方たちが物資の配布に来られたので、「〇〇に住んでいるおばあさんは食糧が不足している」などの地元の情報を提供して助けてもらっていました。支援団体の方たちと地元の人たちを繋ぐ役割ですね。震災

前からやっていた子どもたちのキャンプも、再開しました。子どもたちは心を解放する時間があったのもいいと思ったんです。

一方、漁業者という立場ですと、大学の先生方で調査チームを結成していただいて、海底の泥の分析などを定期的に実施していました。震災の年の夏に、カキやホタテの餌になる植物プランクトンが爆発的に増えたんですよ。それがいると分っただけでもホッとしました。

「津波の後は、いかたが流されたりするけれども、養殖の再開を急げ」という言い伝えがあって、色々な方の助けを借りて養殖を再開し、2012年1月にはカキの出荷ができました。この背景には豊かな森の存在というのが欠かせなかつたと思います。

地元の地区に高さ9.9メートルの防潮堤の計画があったんですが、そもそもその高さのものがあると、そこは故郷じゃなくなりますし、雰囲気も変わります。住民の方々はいらないう判断をしたんですね。住民100パーセントの合意をとって行政側に要望書の提出もしました。

将来のビジョン

森は海の恋人の活動を海外へ広げていきたいですね。環境教育プログラムを海外の方にこの場所を提供するのもいいですし、海外でそういう理念を広げる活動が重要なのかな、と思っています。